

グローバルな時代と 日本経済

損保総研「本科講座」

2019年7月17日

元 慶應義塾大学 教授

柏木茂雄

講演概要

1. 「グローバルな時代」とは何か？
2. 世界の中の日本経済
3. 「グローバルな時代に生きる」とは何を意味するか？

「グローバルな時代」とは何か？

今日、世界の「国境」は一層低くない、「グローバル化」が急速に進んでいる。

「国際化」と「グローバル化」は違う。

- 「グローバル化」した世界では全ての国が同じ条件で競争することとなる。

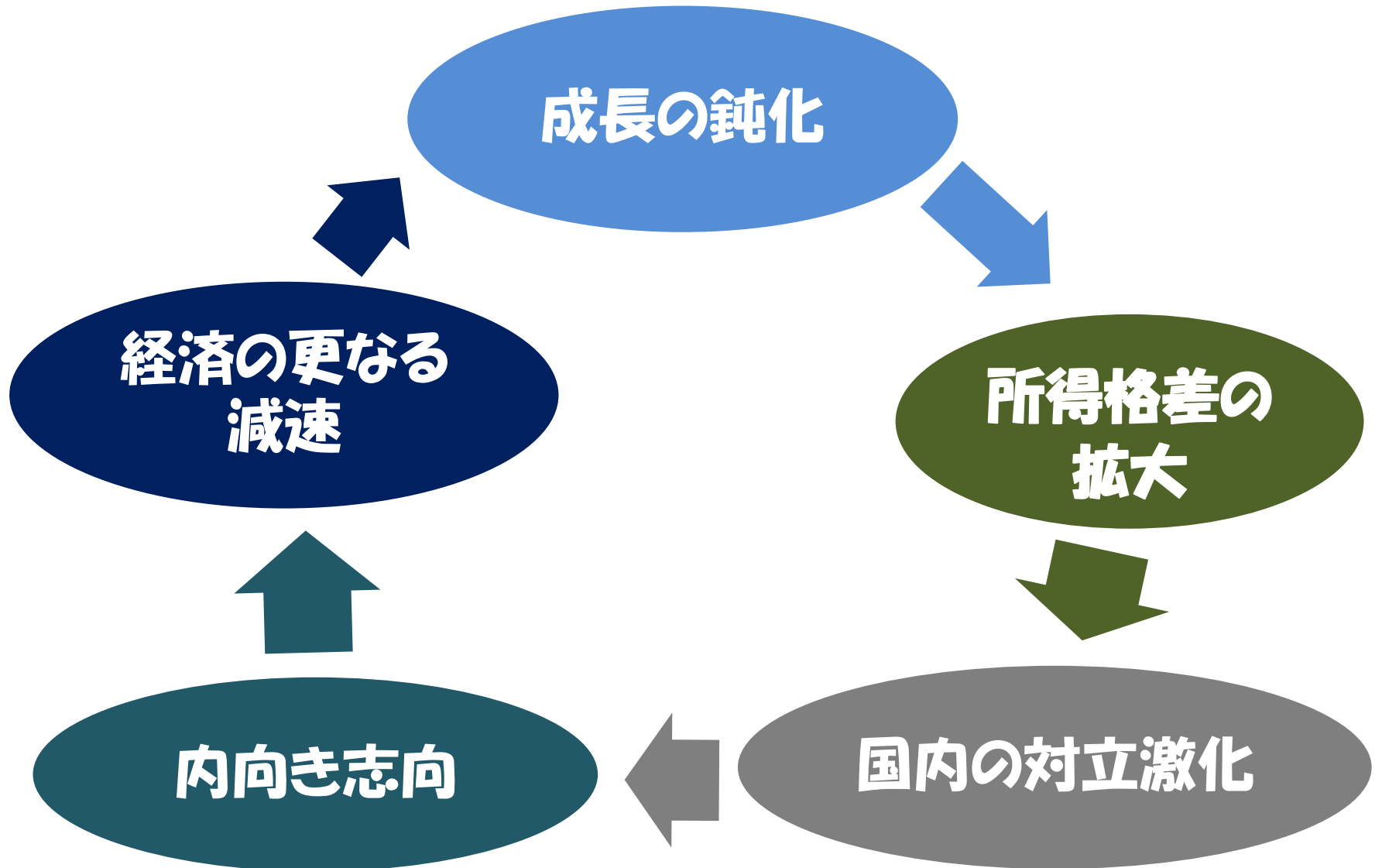
大競争時代

世界は「大競争時代」を迎える。

国家間、地域間、企業間で、
実力を発揮できるものだけが
生き残る。

勝ち残るためには 実力を
身に付ける必要がある。

「競争」から落ちこぼれると、



「グローバル化」の行方

• 「グローバル化」の「光」と「影」

• 「America First」と「BREXIT」

• 「反グローバル化？」

• しかし、グローバル化の流れを止めることは不可能

• 「超グローバル化？」

主要国名目GDP推移(1980年～2020年)
 (2016年時点の上位10位、米ドルベース)
 (単位:兆米ドル)(IMF予想含む)

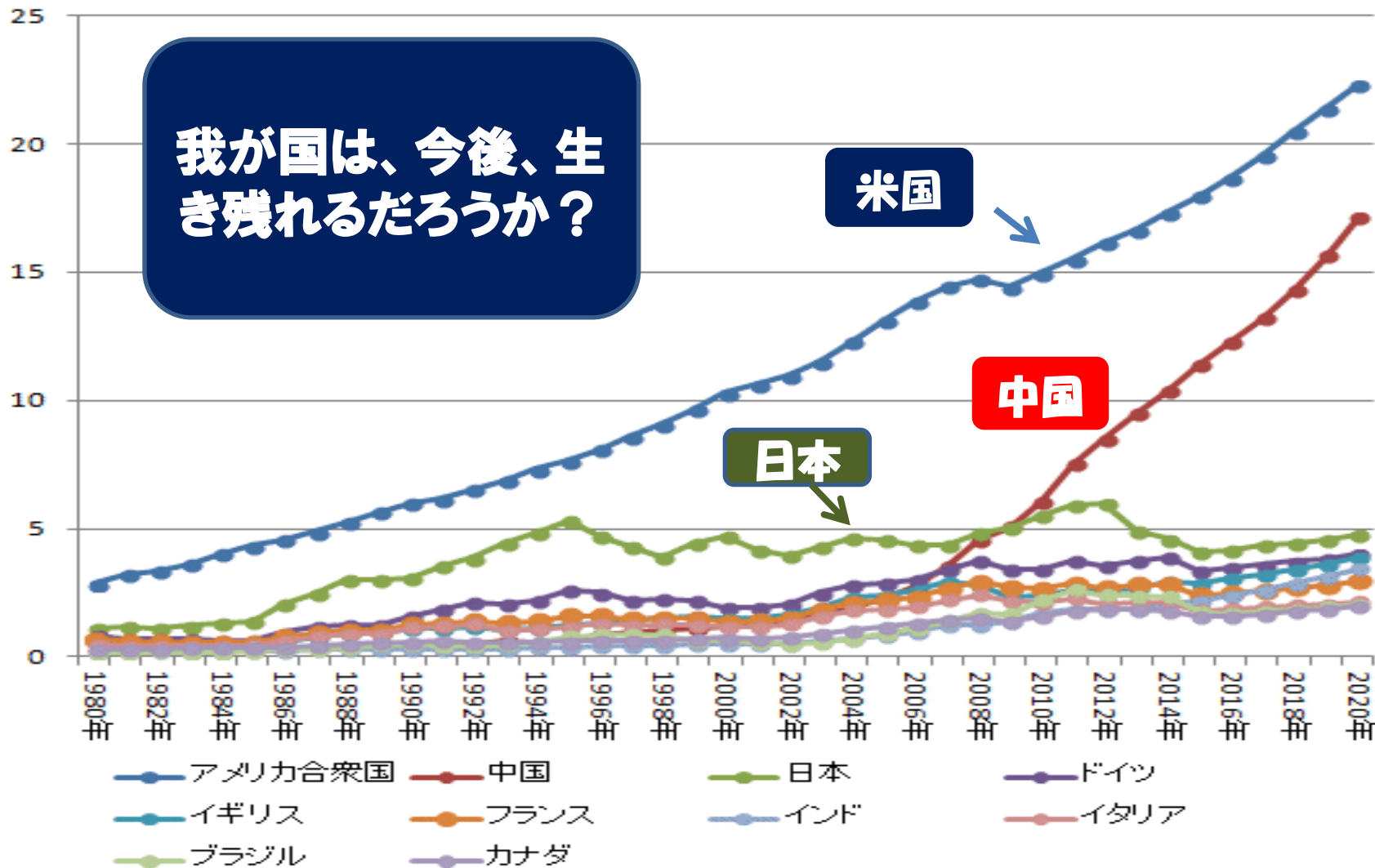


我が国は、今後、生き残れるだろうか？

米国

中国

日本



我が国が抱える諸問題

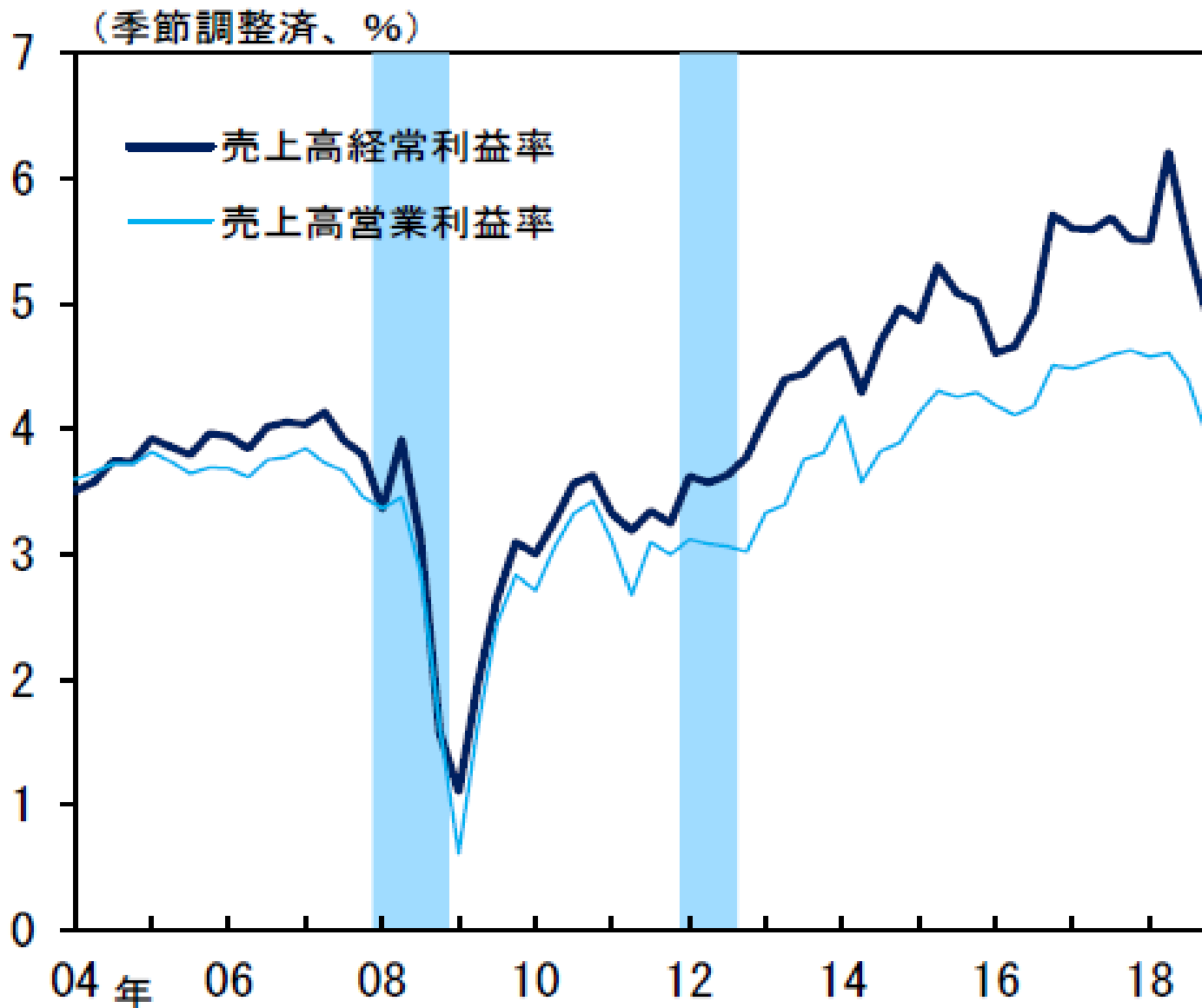
低成長

デフレ

高い公的債務

少子高齢化と
人口減少

企業収益の動向



出所：日本銀行「経済物価情勢の展望」2019年4月、図表18

豊かな企業収益の使い道は？



• 将来のための投資



• 株主に報いるための配当増



• 雇用者に報いるための賃金アップ



• 何もせず、現預金増

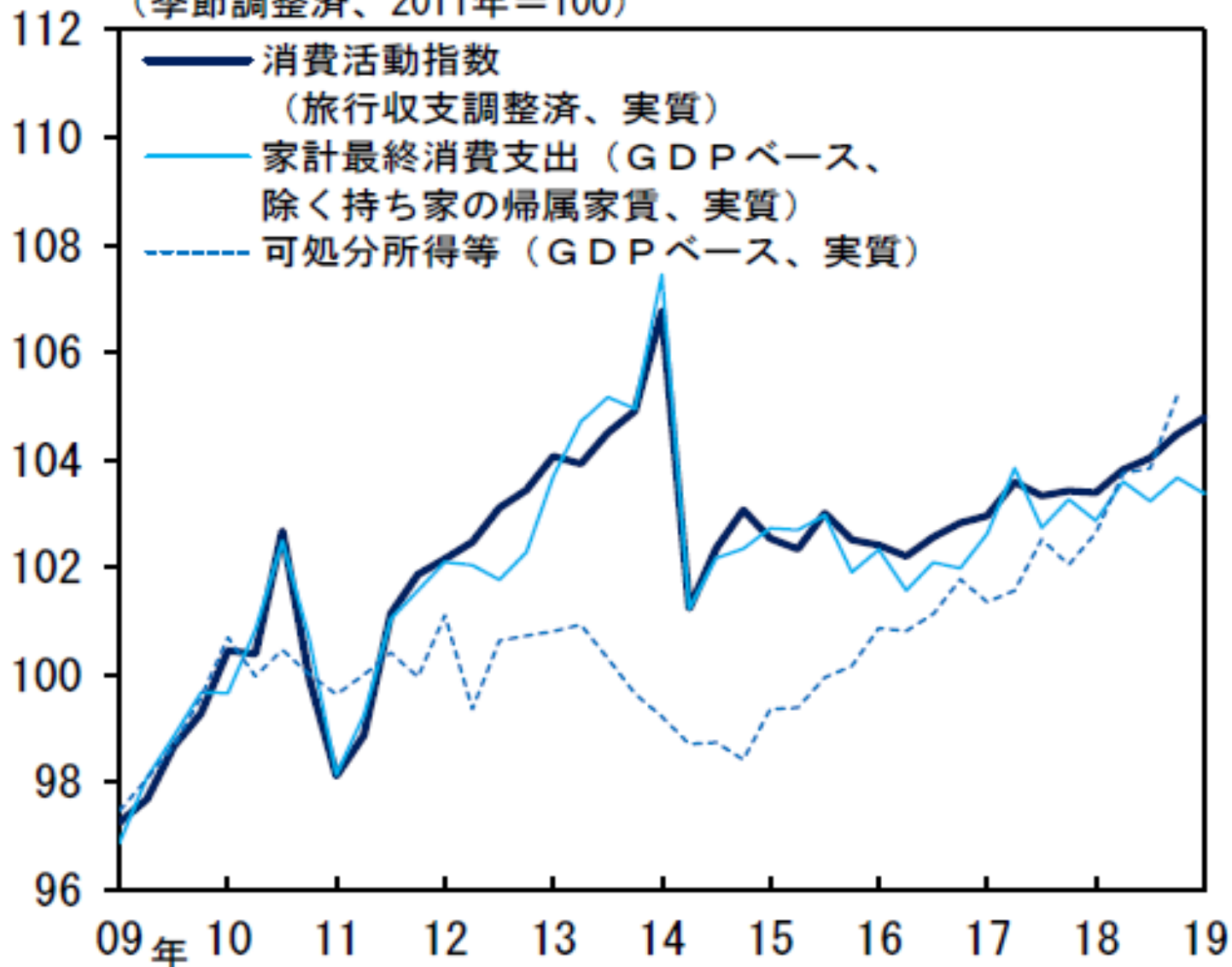
労働市場の動向



出所：日本銀行「経済物価情勢の展望」2019年4月、図表2

個人消費の動向

(季節調整済、2011年=100)



出所：日本銀行「経済物価情勢の展望」2019年4月、図表30

個人消費はなぜ活発にならないか？

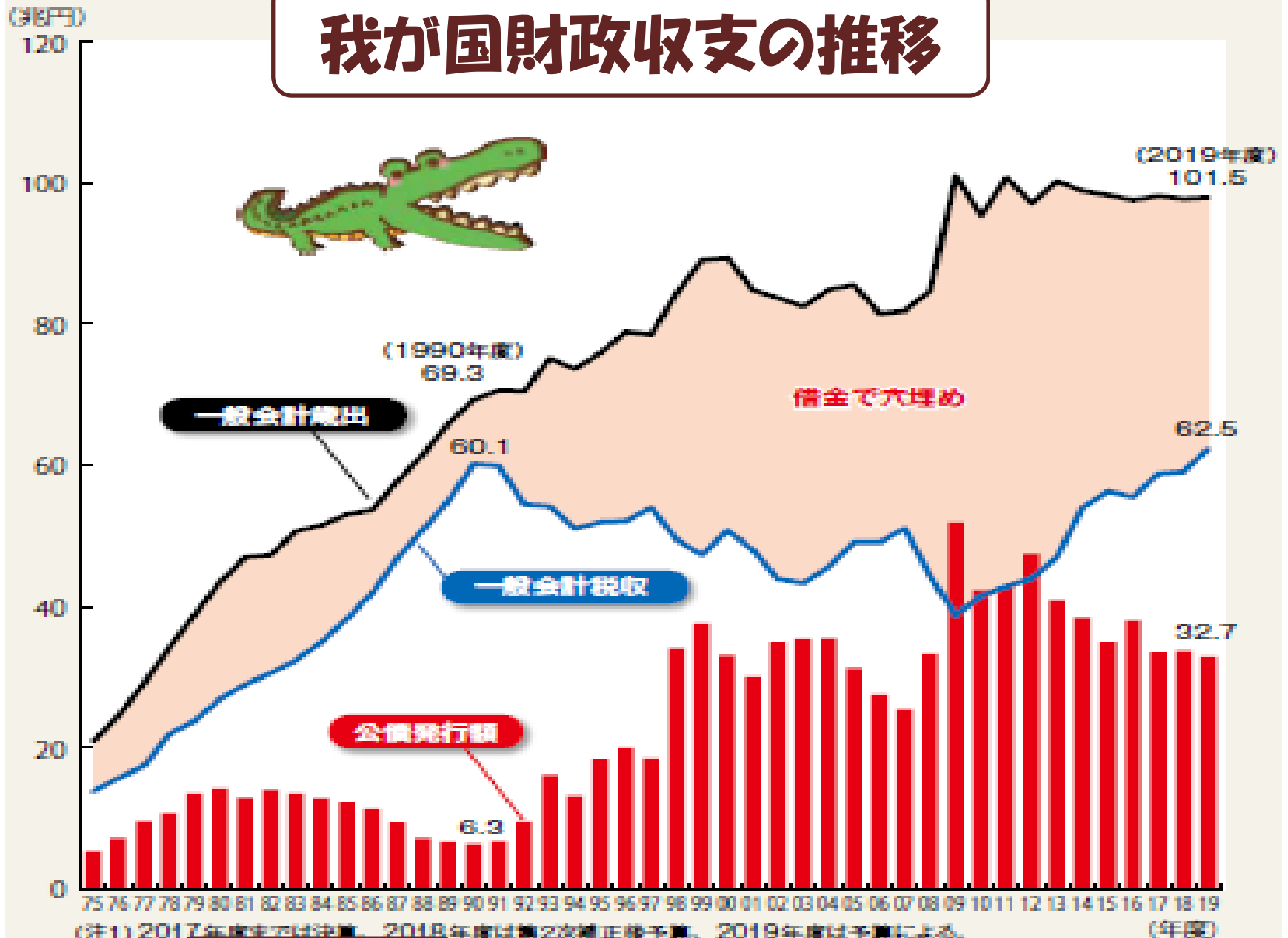
• **(1) 買いたいものは全て手に入れた。**

• **(2) デフレに慣れているため、買い控える**

• **(3) 消費税が高すぎる**

• **(4) 将来不安があるため、貯蓄に回す**

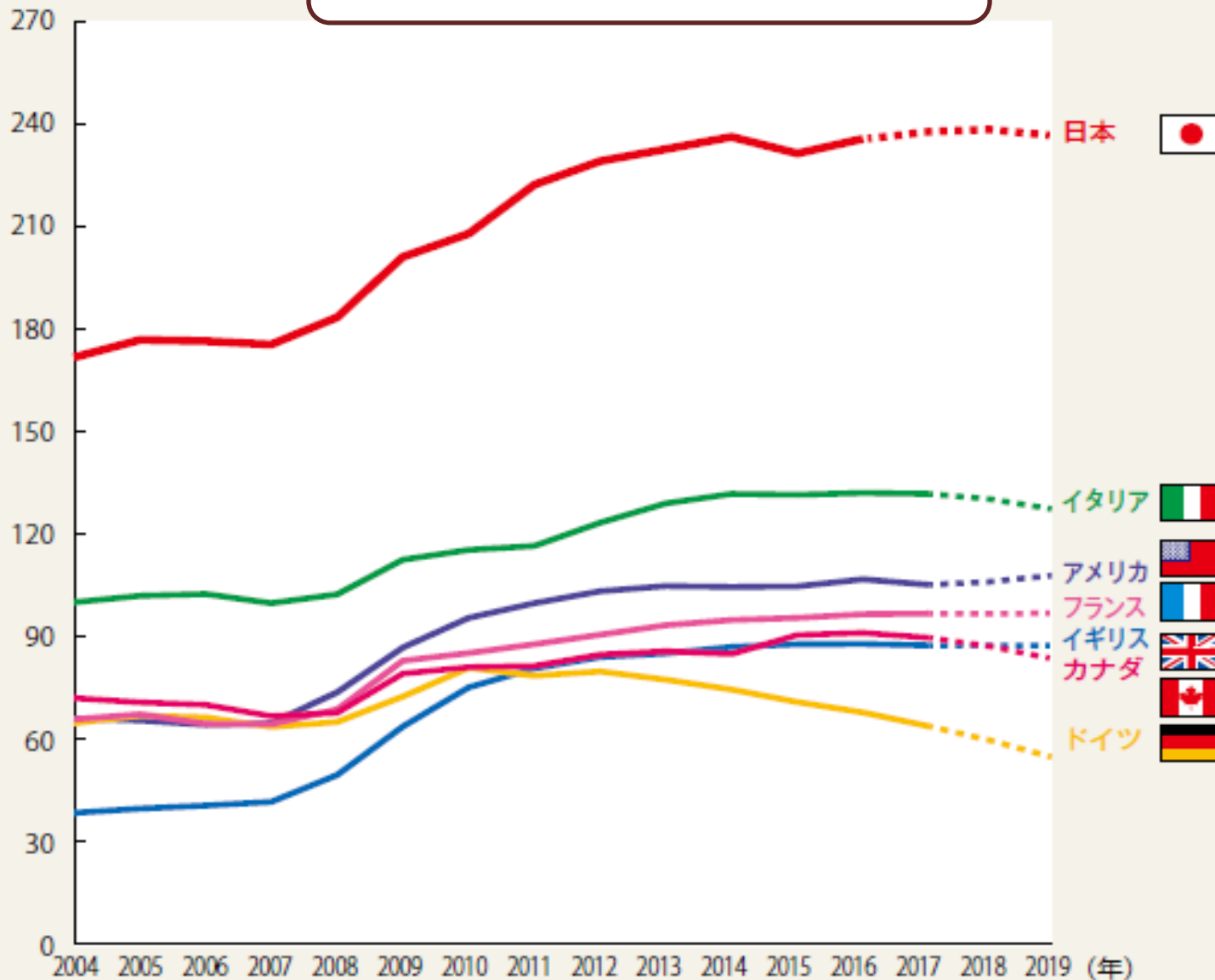
我が国財政収支の推移



出所：財務省

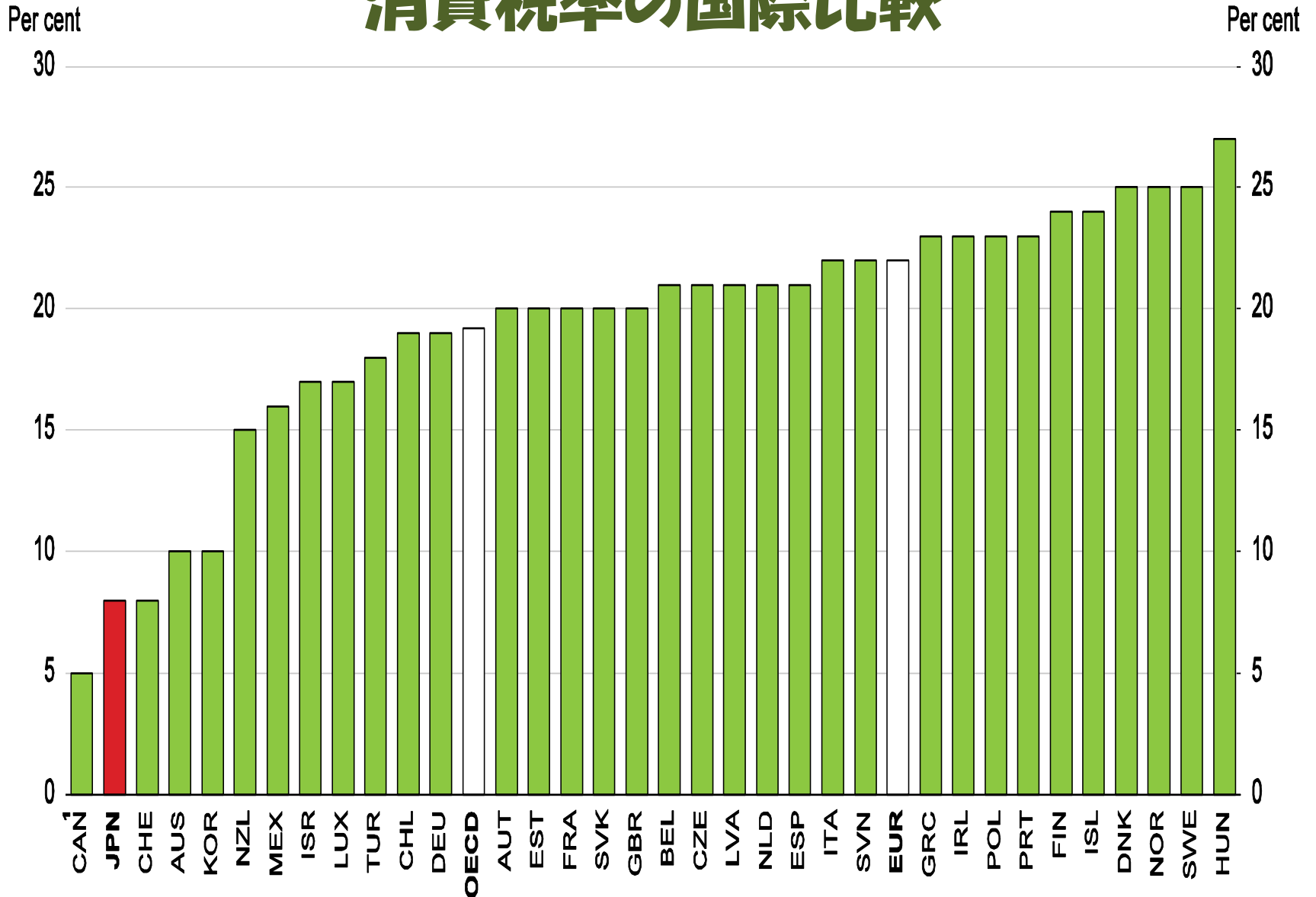
主要国の公的債務残高

(対GDP比:%)



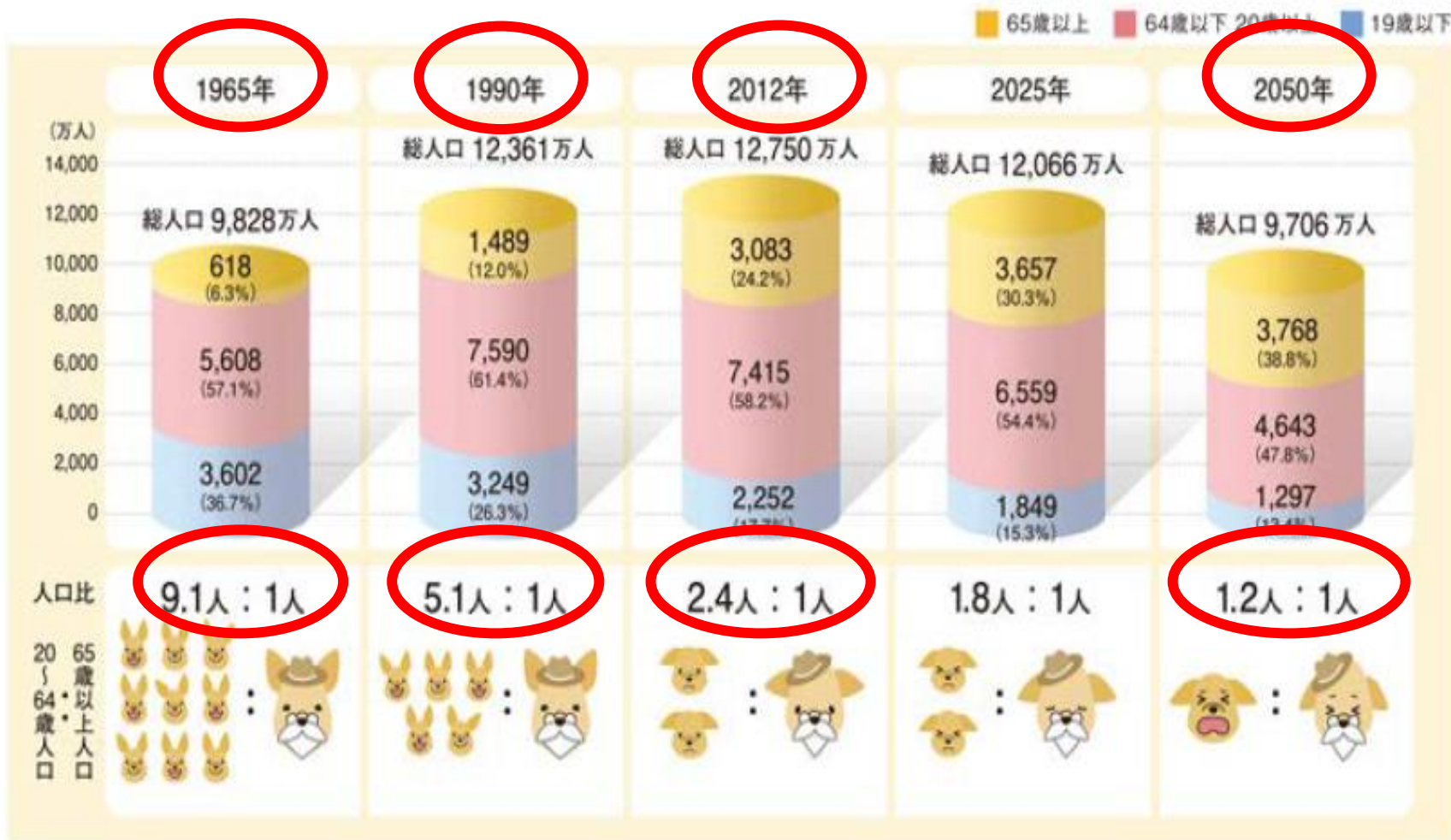
出所: 財務省

消費税率の国際比較



出所: OECD *Economic Survey of Japan 2017*, 2017年4月

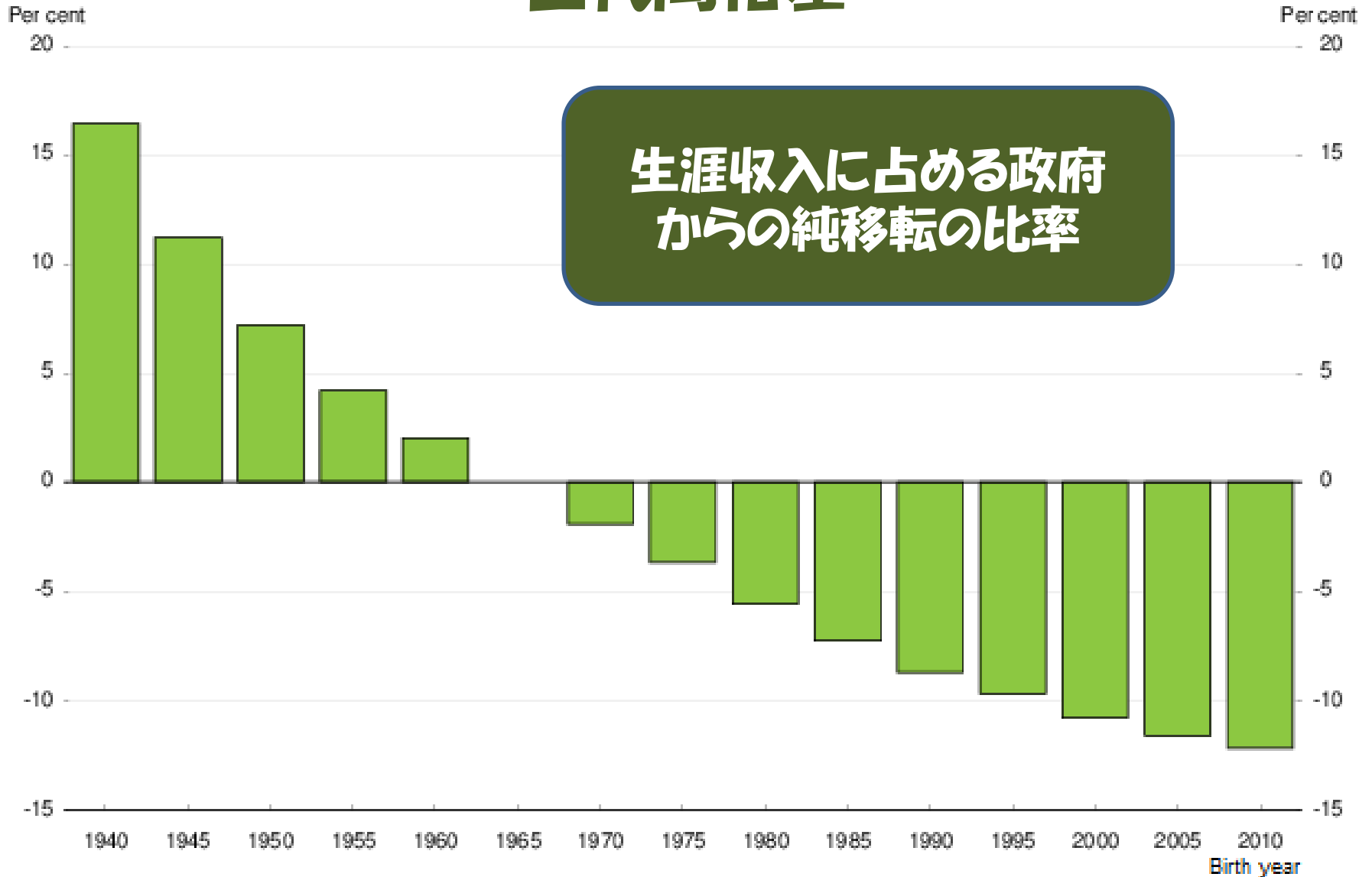
将来世代の負担増が懸念される



(出所) 総務省「国勢調査」、「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(2012年1月推計)」

出所: 財務省

世代間格差



生涯収入に占める政府からの純移転の比率

出所: OECD *Economic Survey of Japan 2017*, 2017年4月

如何に成長力を高めるか？



• 現状維持を打破し、新たに挑戦する



• それにより、生産性を向上させる

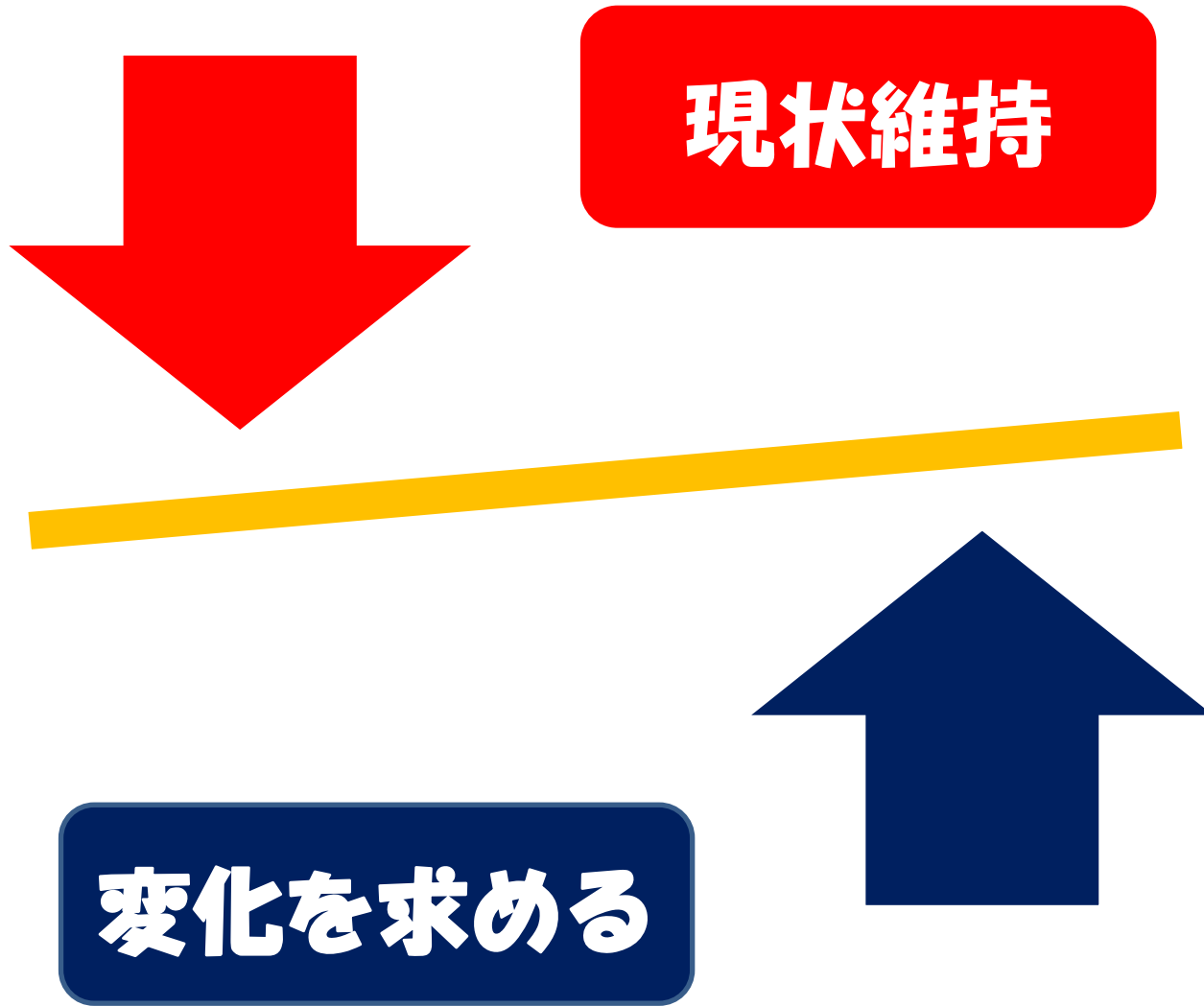


• 我が国の競争力を高める



• しかし、既得権益層と戦う必要あり

構造改革とは何か？



これからの世界は、

変化の激しい時代を迎える

現在ある仕事の大半は
将来、なくなっている

将来の仕事の大半は
現在、存在していない

「グローバル社会」 = 「海外」 でなくなる

• 国内でも「グローバル」な活躍が 必要かつ可能

• 外国人の上司、部下、取引先との仕事が増える

• 「内なるグローバル化」が進む

• これまでの考え方に拘泥しては落ちこぼれる

画一的、均一な 社会から、



多様性のある世界へ変化していく



**国際通貨基金(IMF)：加盟国数 188カ国
スタッフ：160カ国から 2600名**

これまでの我が国の雇用慣行



• **終身雇用**の下で流動性の低い社会



• **年功序列**の下で実力主義が発揮されない社会



• **定年制**の下で安定した社会



• **新卒一括採用**の下での同期意識、社内教育

今後、全て大きく変化するであろう



• **社会の流動化が進む**



• **実力主義、成果主義の時代へ**



• **一人ひとりが自分の人生を切り拓く時代へ**



• **会社に頼らず、自分で自分に投資する必要**

新しい時代を生き抜くためには、

自分を知り、

自分の意見を持ち、

自分を磨く必要あり

「自分を知る」とは どういうことか？

- **自分で、自分のことを
どうやって知るか？**
- **自分で自分を見ること
によって、自分を知る
ことは、おそらく、
不可能。**



「自分を知る」ためには何が必要か？

• 他者を通して、自分を知る。

• 異なる考え方と向き合ってみる。

• 例えば、多様な友人を作る、本を読む、海外に出て知らない世界を知る。

• 多様性を知ることにより、自分を知る。

「多様性」は何故重要か？

異質なものに触れる



常識、既成概念から抜け出す



新たな発想につながる

新たな発想を得るためには、



読む力 と 聞く力 が求められる。

受動的アプローチ

著者または話し手の
言うことを
そのまま読み・聞く

その場合、
受け手としての
分析・判断は不要



双方向アプローチ



**著者または話し手に対して
質問を投げかけ、思索する。**

**そのことを通して、
自分の考えを形成し、深める。**

問う

考える

聞く

語る

他者との意見交換を 積極的に行おう



pixta.jp - 9148924

討論・意見交換は必ずしも
悪いことではなく、自分の
考えをより良いものにする
ために必要なもの。



「自分」を伝える



- **自分を知り、自分の考えをまとめ、自分を磨く努力をしよう。**



- **伝えるべきものがないのに、語学力だけを磨くのは意味がない。**



- **自分の考えを 他者、第三者に分かちやすく伝える努力をしてみよう。**

グローバル社会の一員として参画しよう

一人ひとりが意見を持って初めて
社会としての融合・合意形成
が可能となる



一人ひとりが「説明責任」
を負う



一方、「対話力」「寛容性」
も重要

皆様のご活躍をお祈りします。

ご清聴有難うございました。

NPO法人 国際人材創出支援センター(ICB)

www.icbjapan.com

ご興味のある方はアクセスしてみてください。